



## 全国曹洞宗青年会の 活動紹介(六十五)

「禅のつどい」「災害復興支援全国研修会」「記念誌」「式典」と様々な事業を展開してきた全国曹洞宗青年会創立五〇周年記念事業。周年事業に向けた想いとしては、五〇年前に全国青年僧侶が立ち上がり尽力し創立され、その熱い意志を時代に即し受け継がれた歴代の青年会活動を紐解くこと。そして、創立時と同様に、またコロナ禍を経た現在だからこそ、今一度全国の青年僧侶が集い同じ時間同じ空間を共有すること。さらに未来の青年僧侶のために創立当時の想いや活動を形として残すこと。過去一〇年ごとの周年事業と



### 創立五〇周年記念

#### 両大本山報恩拝登

五〇周年記念事業実行委員長

もりい  
森井 宗淳  
そうじゆん

は、意味合いが一味違う半世紀の総まとめであり、さらに新たな出発点とすべく、『結集・想いを結び合わせ、未来へ』をスローガンに掲げた田ノ口会長を先頭に企画展開してきました。この「両大本山報恩拝登」は、そのすべての意味において中心となるものであり、全曹青の縦と横が繋がる事業でした。

令和五年一月二九日に開催いたしました大本山總持寺報恩拝登では、当会第二期会長をお務めにもなられた石附周行紫雲臺下に「世界平和大祈禱諷経」の御親修と御垂示を賜りました。また、島



蘭進氏（東京大学名誉教授 宗教学者）、大菅俊幸師（SVAアドバイザー）による「『大衆教化の接点』を考える」と題した記念講演（SVA共催）を行い、創立に尽力された有馬実成老師の生涯になぞらえながら、全曹青の活動理

念『大衆教化の接点を求めて』を紐解いていただきました。

翌令和六年一月二一日、大本山永平寺報恩拜登では、全国の青年僧侶とともに僧侶としての初心に返るべく特別に御許可いただいた僧堂内堂での「坐禅一炷」を修行し、その後会長導師を中心に法堂を埋め尽くす青年僧侶での「世界平和大施食諷経」を厳修させていただきました、また両大本山において、「全曹青創立五〇周年報恩諷経」を勤めさせていただきました。

この「両大本山報恩拜登」では、僧侶の初心に返り、抛り所といえる両大本山、両祖様に報恩の誠をささげる意味とともに

に、全曹青歴代三役、WFBY世界仏教徒青年連盟役員と全日本仏教青年会役員にもご参列いただき、過去そして現在なお続く戦災、



● 執筆者プロフィール  
森井宗淳

いずも曹洞宗青年会所属

自然災害の物故者供養と世界平和諷経を行ずることも大きな意味を込めました。青年僧侶だけでなく歴代諸先輩老師と本山修行僧、日本だけでなく世界、曹洞宗だけでなく超宗派が、同じ時間じ場所に集い「世界平和」という衆生すべての願いを一つに合わせることをいたしました。今後、より一層手を取り合い交流を深くし、未来の安寧へと繋がっていくことを念じます。

最後に、この行持開催にあたり賜りました両大本山様の格別なご配慮に対し、衷心より御礼を申し上げます。